会　議　録

会議名	令和８年度第３回京田辺市学校教育審議会
日　時	令和８年１０月１３日（火）午後６時００分から午後８時００分まで
場　所	京田辺市役所３階　３０５会議室
内　容	１　開会 ２　会長あいさつ ３　議事 （１）説明及び審議：前回審議会の整理 ・前回までの意見 ・各主体からみた期待される効果や可能性 ・コミュニティ・スクールの導入意義 （２）説明及び審議：学校運営協議会の制度設計の検討 ①社会教育委員会議での審議状況 ②審議の流れの確認と中間報告（骨子案） ③コミュニティ・スクールの制度設計 ・設置単位（エリア） ・地域コーディネーター ・教育委員会の役割 ・学校運営協議会と学校評議員との関係 ・学校運営協議会の委員構成や要件 ・協議・情報提供 ４　その他
出席者	（委員）１１名出席 沖田委員（会長）、小長谷委員（副会長）、礒田委員、岩井委員、浦田委員、川嵜委員、澤田委員、島谷委員、津熊委員、鳴海委員、森本委員 （事務局） 古谷教育部長、芹澤教育指導監、栗山教育部副部長、平岡教育総務室担当課長、南部こども・学校サポート室総括指導主事、村山学校教育課長、早田社会教育課長、鈴木再任用主査、太田教育総務室企画係主任、山盛教育総務室企画係主任
傍聴者	なし

●議事

（１）説明及び審議：前回審議会の整理

《事務局から資料１を基に前回審議会の整理について説明》

（審議）
出席委員が２つのチームに分かれて、コミュニティ・スクール導入で期待される効果について意見交換し、まとめたものを発表した。

会長：Ｂチームから発表をお願いします。

Ｂチーム：期待される効果や可能性は、資料に書いてあるとおりであり、こうなっていけば素晴らしいです。
　ただ、これをどう実現させるのか。地域の方で協力的な方も多いが、仕事や家事、共働きである中で実際にどうやって学校と協力するか、少しハードルがある。子どもの居場所を作る際も、市の施設の近くに住んでいれば気軽にできるけれども、ちょっと離れていたりすると難しい。学校との連携についても、軌道に乗れば学校の負担も減ってうまく回ると思うが、事務局を学校内に置かれたりすると、結局学校が対応して今までと変わらない状態になってしまう。
　期待される効果が持続する形で実現できたら一番いいです。

会長：Ａチームの発表をお願いします。

Ａチーム：Ｂチームが出してくださったこととほとんど同じです。追加として、有償である意義という話が出ました。これまでは結構ボランティアさんが担ってくださることが多かったけれども、それでは共働き家庭やいろんな年代の方に関わってもらうことが難しくなるので、有償にすることで多様な方に関わってもらえる。
　Ｂチームと同じように、負担軽減の部分で本当に学校の負担軽減につながるのかという懸念であったり課題であったりという話も出ました。
　一つ考えられる大きな効果として、机上の勉強が苦手な子がすごく増えてきている中で、地域の方が関わってくださることによって様々な経験値を上げられる。いろんな経験や多様なスキルを持った方が関わってくださることによって、中学生の進路を考える上で新しいものが生み出せていく。また、地元の方と繋がりを持つことで地元にいようという考え方も一つできていくということも出ました。
　あと、地域のいろんな活動をされているところと共働できるというところで、社会教育委員であるとかスポーツをしている方や団体にも関わっていくことで新しくできてくることもあるのかなというところが出ました。

会長：今出た意見をさらに事務局で整理して、意義をまとめていきます。

（２）説明及び審議：学校運営協議会の制度設計の検討
①社会教育委員会議での審議状況

会長：地域学校協働活動については、社会教育活動による地域づくりという側面もあることから、社会教育委員会でも審議をいただいております。特に地域コーディネーターにつきまして、社会教育活動から考えた審議をされたとのことですので、制度設計の審議をする前に、社会教育委員会での審議状況について事務局から説明いただきたいと思います。

事務局：資料を基に説明

会長：ただいまの説明に関しまして、ご質問がございますか。

副会長：説明のなかで、「うまくいかない要因」とありましたが、具体的には何を指していますか。それからアンケート結果について、何のアンケートか説明してほしいです。

事務局：「うまくいかない要因」については、全国的な事例がある中でうまくいっていないことがあるとの意見が社会教育委員から出たものであり、具体的な内容はありませんでした。それからアンケート結果については、生涯学習の計画見直しの際に市民や関係団体に対してアンケートをとった結果の一部です。

会長：社会教育委員会に出席していましたが、社会教育委員の中にもコミュニティ・スクールに対して非常に関心の高い方と、知識や関心がない方が混在している状態でして、具体的に「うまくいかない要因」を説明したものではありませんでした。むしろ、１１月に予定しているコミュニティ・スクールの全国大会の研修参加で「うまくいかない要因」を知る機会があると思っています。

事務局：補足ですが、ある地域でコロナ過以降に地域の運動会が開催できておらず、話し合いで集まった際には参加や協力を申し出た方がいたので、改めて協力してくれませんかといった主旨のアンケートを取ったところ回答が０だったことがありました。顔を合わせてのお願いは受けてくれるけれど、そうでない取り方をすると、地域からの参加者が望めなくなるという状況があり、厳しい面があるという話をされていました。

副会長：もう一つ質問で、地域コーディネーターの担い手がいるかどうかが、コミュニティ・スクールが上手くいくかの要になると話をしています。社会教育課の方で、どう発掘するのか、または担い手になるような方を掴んでいるのか知りたいです。

事務局：そういった方が増えない実状はあるが、社会教育課でも生涯学習を通して色んな地域で活動されている方や、別の分野で活動されている方を把握して、地域コーディネーターになっていただける方が見つけられない学校があった場合に人材を紹介できるようにしていきたいと考えています。

会長：社会教育委員会でも掘り起こしをしなければいけないと認識して　います。実際にいることも把握しているので、社会教育委員とも連動して探していくことになると思います。

②審議の流れの確認と中間報告（骨子案）
《事務局から資料３を基に説明》

③コミュニティ・スクールの制度設計
《事務局から資料４を基に説明》

審議：コミュニティ・スクールの制度設計
《事務局から資料４及び参考資料①を基に審議の流れを説明》

（審議）
出席委員が２つのチームに分かれて、各３項目について審議し、まとめたものを発表した。

会長：Ａチーム発表をお願いします。

Ａチーム：まず１つ目の設置単位については、資料に単学校型と一貫校型と連携型が書かれているが、京田辺市には一貫校はないのでベースは単学校型になる。ただ、小学校と中学校は共有しているものもあるので、完全に分けて学校単位だけではもったいないという話が出ました。

同じ大住中学校区でも、松井ケ丘小学校と大住小学校だと全く特色が変わってくるので、中学校単位でやるのは難しいが、お互いそれぞれの良さを知ってこの学校にはこういう特色があるというのを子どもたちや地域の方、保護者に共有していく仕組みというのも、子どもの学びにとってすごく意味があるのではないかという意見も出ました。

連携型として、中学校との連携、社会教育委員、地域の方、地域コーディネーターが兼任するなり、地域コーディネーター同士の共有の場を作っていくなりといった形でいくこともありではないか。

２つ目の地域コーディネーターについては、コミュニティ・スクールが成功するかどうかの要になるもので、現状では各校長がこの役割を担ってくださっているという話が出ました。今学校の管理職が地域と繋がりを作っていきながら学校運営している中で、職場体験学習ですごく苦労していて、学校単位で一つ一つ体験をさせてくれるところを回っているけれども、そういったことをコーディネーターが担ってくれたらすごくありがたい。また、新しい繋がりもできていく。

先生方が楽になる制度設計が必要になるので、学校が自校の特色と何を目指しているかとどういう人を求めていてどういうことをするのかをはっきり示していかないと進めていくことが難しくなる。学校が進めていきたいことを明確にすれば、そういうことにお手伝いできますといった想いで関わってくださるコーディネーターの方もいらっしゃるのではないか。

コーディネーターを探す方法は、例えば管理職や学校関係者がなってくださる方の名前を挙げることも考えられるが、例えばこの学校でこういった方を求めています、こういった活動をしていきたいですということがはっきりしていけば、一般公募してもらう形もできるのではないかと。そうすることで新しい人材を発見・発掘してけることにつながる。地域と学校の方針とのミスマッチも起きにくくなっていくという話も出ました。

３つ目の教育委員会の役割については、主導権を取って進めていくということで役割としては大きいものがある。一番重要なのが、研修ではないか。教職員の研修も重要ですが、コーディネーターの研修というのがすごく重要になってくる。

あとは市民の方に学校がどのようなことをやろうとしているのか地域と一緒になにをやろうとしているのかを知っていただくことが重要で、地域全体でワンチームとなって自分事として、みんなが支えていくようなコミュニティ・スクールにしていくためには、やはり市民への周知というところも非常に重要になる。一つ案としては、コミュニティ・スクールを知っていただく催しものを開催するのも、様々な方に関わっていただけるような仕組みというのも、発信して考えていく必要がある。

その上で、やはりすごく大事になってくるのが予算の確保であり、これを頑張っていただきたい。

会長：ただいまのＡチームの発表に関しましてＢチームからご感想・ご質問・

追加の意見がございましたらどうぞ。

Ｂチーム：教育委員会の役割について、研修もあるが委員を委嘱することと、委嘱されるときに、委員に役割をしっかりと理解していただかないとうまくいかないと思いますので、就任する前にそういったものを伝えておくことや事前の研修も役割にある。

会長：それでは、Ｂチーム発表をお願いします。

Ｂチーム：１つ目の学校運営協議会と学校評議員との関係については、学校評議員が形骸化してきている事実がある。１学期に学校の様子を授業参観で見てもらい、子どもたちのアンケート結果を紹介して、２学期にこういう課題があり、現状こう対応しているということを見せていくだけのものになってしまっているところがある。評議員が１人の学校もあるくらい、地域の人材を見つけてつながりを持つことが難しい現状がある。

２つ目の学校運営協議会の構成や要件については、将来子どもたちがその地域の担い手になっていくことを目指して、どのように子育てしていったらとか、どういうふうに導いてあげたらいいかっていうところも含めて地域の方といろんな話ができたらいいなという話が出ました。

培良中学校区では子どもが減っているので、子どもたちがその地で育って地域が活性化していくには課題があると私も感じています。構成員には、保護者や地域住民とかが資料に書いてあるが、学校のＰＴＡをする際も個人単位で入っていくのではなくて、グループで入っていただくとやりやすいということがある。構成員についても、数は増えてしまうけれどもＰＴＡから保護者数名、地域の方が数名となると、知らない人たちが顔を突き合わせるよりも見知った人たちで意見を言いやすくなるという意見がありました。

３つ目の協議・情報提供については、子どもたちからもいろんな意見を吸い上げて反映させたり、学校がどのような方向性を持って進めていくことについても子どもや地域の人の意見を取り入れていったりする必要がある。例えば子どもや地域の人の意見を取り入れて校則を作るだとか、学校の希望がかなうためにはどういうことをしていかないといけないといった話をその地域の子どもたちと学校が一緒になってやっていけると非常にいい。

学校の一室を、企業でやっているようにクールスポットとして活用して、地域の方・学校関係者・子どもたちが入れるスペースがあるといい。そのためには、セキュリティ上の課題も出てくるので難しいかもしれないけれど、

そういうスペースがあると面白いかもしれない。
　どんなことでも、やらないといけないからやるのではなく、こんなこともできるねといった意見が出て、こういう人たちに手伝ってほしい、こういう人たちの意見がほしいということを考えて行けば、みんなで作り上げていくという感じがでてくるので、そういう話の場と人材があればいい形で進んでいくと考えます。

会長：ただいまのＢチームの発表について、Ａチームの方から感想・ご質問・追加の意見がございましたらどうぞ。

Ａチーム：１つ目の学校運営協議会と学校評議員との関係についてもう少し説明してください。

Ｂチーム：協議することと意見を求めるのと役割の段階が違うので、運営協議会が設置されるのであれば、学校評議員は解消していいと考えます。

会長：最後にその他全般に関して質問・意見ございますか。ないようでしたら、私からの議事につきましては以上になります。

●その他
《事務局から１１月の研修及び第４回以降の審議会予定について連絡》

（以上）